

世界平和と日常生活

天台座主

山田恵諦猊下

本日図らずもこのような栄えある賞をいただきまして、ありがたい感謝の気持ちで胸一杯であります。実を申しますと、ご通知をうけました時からどうしてこのようなことになったのか、果たしてその資格があるのかなど、お受けいたしました今もなお複雑な気持ちで、お礼の言葉など何と申してよいのか心に浮かびかねている状態であります。と申しますのは私が世界平和を目標にしたみなさま方のご活動に参加したのは、僅か十数年前からであります。実務成績から申しますと至って幼稚であり、他に多くの先輩がおられるのに賞をうけるなど、もってのほかといわねばならない恥ずかしさがつきまとっているからであります。ただここで私が自己なぐさめの意において少しでも皆さまのご同意が得られる面があるかと考えてみると、私の過去80年の僧侶生活のうち60年の行動と理念が、ただ今多くのかたがたが申されている世界平和とその軌を一にして、二つを重ねても少しの狂いを見ないからであります。

私ごとを申して恐縮でありますが、私は16歳のときに比叡山に参りまして修行に入ったのであります。自分の将来を考えたとき師匠が学者でありましたので自分も学問で身を立てようと思っておりました。それが33歳のとき延暦寺の執行をしておられた赤松円麟という大先輩の秘書を命ぜられて御指導をうけることになりました。ある機会にその赤松僧正が「叡山坊主で生涯を暮らすなら、腹の底から叡山坊主になれ。叡山坊主は伝教大師の末裔として伝教大師の比叡山を守り、伝教大師の比叡山としての光を国内外に發揮しなければならない義務がある。私はいつもその



昭和62年5月10日から6月10日まで各宗法要に参列

気持ちで終始してきた。比叡山で暮らすなら君もその覚悟でやらねば駄目だ」と訓えられ、その通りだと感じましたので、それ以来学問の道からはずれて、ただ一途、伝教大師に叱られない比叡山坊主になり、伝教大師が喜んで下さる比叡山を保持することを心として暮らして参りました。伝教大師の比叡山というのは、伝教大師が何を目標として比叡山を開き、何を目標として比叡山の宗教を設立せられたかということであります。

伝教大師は応神天皇（270～310）の御代に中国から帰化して比叡山の東麓に居住していた登万貴王の後裔で、両親が世継ぎが欲しくて比叡山に祀られている地主神に祈って授けられたと伝えられており、12歳のとき近江の国分寺に入つて行表律師の弟子になり、14歳出家得度して最澄と名乗り、19歳奈良東大寺で受戒して国および宗団が認める比

丘僧になったが、その当時における仏教の在り方に疑問を持ち、真実の仏教精神を發揮する仏教の在り方にしたいと念願して、その年の夏7月世間の混雑を避けて比叡山に入り、自ら仏像を刻み御堂を建て、22歳仏教の修行道場として開創したのが今の比叡山延暦寺で、その時に灯明を獻じて自己の信念を仏に祈誓した願文によって大師の開創の意志を知ることができます。爾来専ら比叡山を修行道場として自らも修行を重ね、56歳比叡山上の中道院で亡くなりました。伝教大師の伝記は幸いにして弟子の光定や仁忠が詳細な記録を遺しておりますので、伝教大師の著書と併せて、信仰の信念や、仏教精神活用の理念と方法を知ることができます。煩わしく感ぜられるかもしれません、世界のすべての民衆の幸福を志念して永遠の指導法を確立し、後継者がその理念を尊崇実践して今日の日本仏教が存在することを理解して頂くために説明を加えさせて頂きます。伝教大師の宗教理念は、仏教は釈尊がすべての人びとが安心して暮らせる生活理念と方法を説かれたのであるから、それを実践してすべてがよき環境に安住して幸福な生活を営むよう指導しなければならないという一条に終始しております。則ちはじめに寺を開きましたとき、仏に誓いました願文に

伏して願くは解脱の味独り飲まず、安樂の果独り証せず、法界の衆生と同じく妙覚に登り法界の衆生と同じく妙味を服せん

という一句があります。修行して悟りを開いても自分独りが満足するのではなく、それをすべての人に伝えて、共に俱によき環境を作りよき生活を営むよう導きますというのであります。法界は宇宙全体という意味でありますから単に地球だけではなく、他の世界に住む人もというのであり、妙覚は悟りを開いた仏でありますから、苦しみのない安らかな心の持ち主になるように導き、豊かな心の生活をさせますと誓っているのであります。そしてこの誓いは終生変わることなく実行せられて、すべての行業の上にその跡を残しております。比叡山に新しい宗派を開く際も「一目の羅は鳥を得ること能はず、一両の宗何ぞ普く汲むに足らん」



立正佼成会法要(昭和62年6月5日)

と前提として、在来宗派の興隆、永続の方法まで加えて請願し、皆が喜びを以てこれを歓迎していることや、晩年、比叡山の宗教道場を修行者の養成場にして時代相応の宗教活動を営むことによって民衆を幸福に導くようにしたいと請願し、それが実現して今日の日本仏教が生まれております。このように伝教大師の宗教理念は生涯を通じて変わることなく実動せられておりますので、これを受けついで実践してきた比叡山宗教はそのまま伝教大師精神の発露であり、伝教大師精神を除いて比叡山宗教はないと申しても過言でないであります。伝教大師の意図することは

——宗教は時代を導き、民衆を導く大切な光であるから、民衆の幸福を基本にして時代の流れの是非善惡を判別し、よき環境のもとに時代適応の宗教生活を営むことによってすべてが幸せになるよう導かねばならないが、民衆は千差万別で信仰もそれに従って異なるから、すべての人を導くためには、如何なる宗教もすべて必要であり、大切にしなければならない。したがってお互いに他の宗教を尊敬し、その長所を讃仰しながら提携して、共に俱に力を合わせて導きを展開しなければならない。この故に修行する者はあらゆる宗教を学び、その長所をそれに適合する民衆に施せ——というのであります。重ねて申しますと、自己の信仰は大切にしなければならないが、それは自己の信仰で求めない者に強要すべきではない。布教は民衆のた

めにするのであるから、民衆に宗教心を発さしめることが肝要で、宗教心を発した人が何を求め、何を望んでいるかを知りそれに適合した教えを提供するならその人は必ず幸せを求めて宗教生活を営むであろう。要は相手本位に適した宗教を以て導くにあるのであります。歴史が示しておりますように、祖先の宗教は概ね子孫に大切に継承せられて深い信仰の生活が営まれておられますからありがたいことであります。したがいまして今は世界の宗教が互いに尊敬しながら協力して大衆を導く時代が到来したのではないか。一昨年の比叡山開創1200年記念世界宗教サミット並びに世界平和祈りの集いが、日本宗教界の大方の皆さま方が主催者となって行われたことや、今年1月オーストラリアのメルボルンで行われた世界平和祈りの集いに持参いたしました比叡山根本中堂の不滅の法灯が、行事の終了後、聖公会メルボルン大主教ペンマン師の公邸に運ばれ、大主教夫妻が修道者とともに永くこの火を護りますとお約束下さいましたことなどを思いますとき、世界宗教者が協力一致して平和の維持に努力を重ねようとする意志が実行に移された証明として受け取らせて頂き、ありがたく思うと同時に前途を祝福する心で喜びを隠すことができません。

平和を維持しようとする心は全世界のすべての人が持っておりますし、惜しむことなくそれに努力を注いでおります。しかしながら、平和の妨げとなる問題が次から次へと発生して悩みを大きくしているのも事実であります。核の問題、食糧の問題、難民の問題、エネルギーの問題、環境の問題等、いずれを取り上げても平和維持のために解決しなければならない問題ばかりであります。このうち、核の問題は保有者の良識に俟つより他ありませんが、幸いにして保有者の良識が良き方向に動いておりますから一応皆で見守ることにして、その他の問題は煎じ詰めるとそのすべてが人口問題に関連しております、世界全宗教者が教育者やその他と緊密な連繋をとりながら対処しなければ、容易ならざる結果が招来するのではないかと心配しております。

今世界の人口は、1987年の国連から出された人口白書によると50億に達したと報告されております。それと同時に

この50億人達成ということは人類にとって勝利なのか、また未来に対する脅威なのかという問い合わせを発しております。人口問題を真剣に考えて下さいという呼びかけであります。国勢調査のない国が多いので世界人口の数字は専門家の推定と言われておりますが、予測に従いますと21世紀の初めには80億、世紀末には160億になるだろうと申しております、日本だけを見ますと21世紀の初めには1億3,000万人になるが、これをピークとして次第に減少化し、世紀末頃には1億1,300万人程度に下がり、当分その数字は動かないだろうと推定せられております。しかし世界の数字は総合したもので地域的に見ると北（先進国）から南（発展途上国）へ大きく傾き、北では減少し南では増大する。したがって南では飢餓や病気や砂漠化が増大して、多くの人が都市に集中してスラムをつくり、あるいは不法移民としてなだれのように国境を越え、世界各地で深刻なトラブルを起こす危険があると報ぜられております。世界中の人が心してからねばならない問題であります。

平和の基本は生活にあります。生活が思うようにならないと必ず不幸が起り、心に不幸が湧くと言葉や動作に自我が発生して、自然にその環境に乱れが出て来ます。したがって、平和を維持するためには常に人口と生活のバランスを調和させていかねばなりませんが、人口が他の条件に拘束せられることなくどんどん増加するとなるとこれは大きな問題であります。現在の情勢に従いますと生まれる率が高くなる上に死亡の率が低くなっていますから、生産能力のない従属人口が高い比率を持ち、家庭生活に一層の重圧がかかる状況になってきております。平和な生活は容易ではありません。私は今こそ宗教家が身を以て導きをせなければならぬ時だと思っております。家庭は人生の最上の慰安所であり、休養所であります。また最高の修養道場であります。国形成の単位である家庭が乱れては世界平和は維持が困難になります。如何なる場合に遭遇しても心安らかに暮らすためには、おだやかで清潔な心を持つ人々との集まりである家庭をつくることが大切で、そのためにはまず以て人間形成から着手する。一つは習慣的に譲り

合う人作り、今一つは慈しみ深い性格を持つ人作りで、習慣づけるには宗教を以てし、性格づくりは胎教を以てする。気の長い話でありますが、それが一番大切で、宗教家が身を以て範を示しながら導きを施し、それぞれの道を歩む専門家が周囲から援助し総がかりで人作りを進め、人口増加を円満に処理しなければなりません。21世紀を乗り切るために今から着手することが必要であります。このほどメルボルンに参りましたとき、フォコラーレの代表者の一人であるナタリア女史に会いました。今世界160カ国に広く50万人の会員を持っているが、女3人が話し合って始めたと申されておりました。国籍、文化、信仰の異なりはあっても一致和合という生涯をかけて生きる一つの理想によって結ばれ、平和が実現される一致した世界を築くために生きる集まりというのでありますから、その気になって皆が実行すれば人間形成は必ず成功すると確信しております。

まず始めの宗教による習慣性作りであります。これはいずれの宗教にもあります戒律を厳重に実行することで、仏

教で申しますなら三帰戒で、仏を信じ、仏の教えを信じ、皆が共に手を取り合って修行する。この大本のもとに、無駄な殺生はいたしません。盜みはいたしません。家庭を乱す性行為はいたしません。嘘は言いません。常に正しい心を保持して自我は出しませんという五戒を心として生活するのであります。私はこれを実行する方法として伝教大師が私どもに毎朝読んで実行せよと残された6カ条の日常の心得を一般の人びとに当てはめて、朝仏壇なり神様なりに参られたとき、拝まれた後で次のようにして下さいとお願ひしております。

1. 昨日の生活で反省せなければならない点があったかどうかを考える。
 2. 今日は平常通りの仕事をするのか、誰かと約束事がなかったかを考える。
 3. おだやかな心を持つ人になる決意に背くを行いがなかったかを反省する。
 4. 自分や家族の生活に無駄がなかったか無理がなかつ



宗教協力・世界平和を語り合う山田恵諦猊下と庭野日敬総裁

結願法要（昭和62年6月10日）

たかを考える。

5. 家族と共に夕飯をたべることができるかどうかを考え、なるべくできる工夫をする。

6. 今日皆が無事でありますようにと祈りを捧げる。

家庭の集まりは夕飯どきより他ありません。夕飯を大切にする家庭は円満であります、これもない家庭は必ず円満を欠きます。話し合う機会は夕飯どきより他にないからであります。

他の宗教にも日常行うべき行事が課せられているはずであります。それも必ず生活の妨げにならないだけでなく、心を引き締めて生活に寄与するように設けられているはずであります。心がけ一つで行える簡易な戒律があるはずであります。それを実行することによって人間形成をすればその家庭は必ず円満であります。第二の胎教であります。人の性質は持って生まれるものであります。しかもそれは概ね母の胎内に在る間に作られると医学上から判断せられております。ある人がナポレオンに人の性質はと尋ねるとその子の母が胎内に宿ったときに始まると答えたという話を本で読んだことがあります。人の性質はお婆さまからうける。家庭の尊さを感じずにはおられません。

ある人がアメリカ第8代の大統領になったリンカーンに友人の就職斡旋を依頼しましたら、一度その人に会ってみた上でというので友達を会わせました。「どうでした」と尋ねるとあの面相ではだめだという。面相は生まれつき、それを非難することはと怒りますと、リンカーン曰く、40歳までは親の顔、40歳過ぎたら自己の顔、あの人があの年齢での面相であることはあの人には宗教心がないことを表示している。宗教心はその人の面相を円満ならしめる功德を持っている、宗教心のない人を他に紹介することはできないと答えたという話もあります。

世界の平和は世界中の人が協力一致しなければ維持することはできません。戦争は一人でも起こせますが、維持は全部の協力が必要であります。人口の増加に伴って必需品が満足であれば平和は維持できますが、万一、必需品が人口増に伴わないとき必ず争いが起こります。例えて申しま



日中三山合同法要、天台・五台・比叡の三山の高僧が根本中堂前で記念撮影

すなら、10人に10個のパンがある場合には平等に分け合うことができますから争いはありません。15人に増えてもパンはそのまま10個であった場合、これを如何ように配分すればよいか。更に人が増えて20人になった場合どうするか食糧と人口がアンバランスになった場合に平和を維持するためには、互いに譲り合い助け合って暮らさなければなりません。エネルギーの問題、環境の問題、その他の如何なる問題もそれを解決するには常に平等の恩恵を基本にして考えねばなりません。「皆が共に」という処置法は穏やかな性質の上に宗教心をプラスした人の集まりでなければできにくいことで、世界という大きな器も人という小さな集まりで形成せられていることを思うとき、性格をも左右する心を淘汰する宗教者の責務は重く、世界の宗教者がそれぞれの宗教を以て、信する人びとの心に穏やかさと慈しみを育てること、私は宗教者が一致してこの基本作りに努力するなら、地球の上に如何なる変化が起きても必ず切り抜けることができると確信して、如何なる宗教を信ずる人にも快くお話をさせて頂いております。

今日この栄誉を頂きました御礼を兼ねて、自分自身の宗教活動方針を披瀝し、実行を以て栄誉に酬いたいと念願しております。

ありがとうございました。